環境問題に対する大学の姿勢を表す、エコマーク・キャッチコピーが決定しました。

エコロジーを推進する愛知淑徳大学の新たな一歩

学長 島田修三

歌人としても活躍、2011年には歌集『蓬歳断想録』で「第45回 迢空賞」など数々の賞を受賞。

「エコ」のシンボルを学生から広く募集

島田　愛知淑徳大学では、約5年前からコミュニティ・コラボレーションセンター（CCC）を拠点に、学生たちがエコロジーに関する活動に意欲的に取り組んできました。「2010愛知環境賞」の優秀賞をいただき、また、大学祭実行委員会による清掃活動が地域の方々から高い評価をいただいているなど、学内外で実績を積み重ねています。

その根底にあるのが、大学の理念「違いを共に生きる」。さまざまな人、命が共に生きるための安全で豊かな環境を、どう共有していくか。こうした考えを一人ひとりが深め、エコロジーに関する取り組みをさらに広げるために、この度、シンボルとなるエコマークとキャッチコピーを学生から募集しました。

吉崎　学生たちの柔軟な発想に期待しました。応募点数はそれぞれ42点。9月に、教員8人、大学祭実行委員2人の10人で選考しました。どれも力作で、選ぶのが大変でしたね。厳正な審査の末、並べたときに互いに響き合った伊藤さんのエコマークと亀井さんのキャッチコピーに決定しました。

熱い思いが込められた学生たちの作品

吉崎　2人は、どのように作品を制作しましたか？

伊藤　愛知淑徳大学らしさを端的に表す「AS」と、地球を組み合わせ、エコロジーに対する力強い思いが伝わるようにデザインしました。「AS」は一筆書きにして、マークとしてのまとまりを持たせるとともに、私たち人間と地球の「つながり」を表現しました。

亀井　私は東日本大震災後、募金活動や被災地でのボランティア活動に参加し、人と人がつながること

地球とつながれば
明日が変わる

愛知淑徳大学は、エコロジー・環境問題を考えます。

最優秀作品に選ばれた学生たち

キャッチコピー

亀井佑哉さん
現代社会学部　現代社会学科
メディアプロデュースコース３年

エコマーク

伊藤真由さん
現代社会学部　現代社会学科
都市環境デザインコース３年

学生部長
教授 吉崎一人

専門は認知心理学、神経心理学。2010年より愛知淑徳大学 心理学部 教授。2011年より学生部長。

との大切さを実感しました。だからこそ「つながる」という言葉を使い、ストレートに伝わるキャッチコピーをつくりたいと考えました。

島田　それぞれを組み合わせると「ＡＳ」と「明日」がつながり、エコロジーに対する大学の思いが体現されます。まさにシンボルにふさわしい。

吉崎　今後、ポスターや印刷物などに使用し、多くの人の目に触れるようにします。多くの学生や教職員が、エコロジーに対する高い意識を持つきっかけにして欲しいと思います。

島田　愛知淑徳大学はボランティアに励む学生数が全国トップクラス。主体的に活動する学生が多いという伝統が、さらにゆるぎないものとなって続いていくと期待しています。

愛知淑徳大学から地域へ、日本へ、地球へ

吉崎　これから2人はエコロジーに対してどう取り組みたいと考えていますか？

伊藤　一人ひとりが「自分のスタイル」で行動していくことが大切だと考えています。だから私は、今学んでいるインテリアの分野からアプローチし、環境に配慮したイスや照明などを制作したいと思っています。

亀井　メディアを専攻している私は、「エコロジーと真剣に向き合う愛知淑徳大学」の姿を広く発信したいと考えています。大学からムーブメントを起こし、地域、日本、そして地球を変える力になれたらうれしいですね。

島田　今の2人の発言は、学生に期待していたことそのもの。頼もしい限りです。このエコマーク・キャッチコピーのもとで全学生・教職員がひとつになり、よりよい明日へつながる動きを愛知淑徳大学から生み出してほしいと願っています。

表彰式

島田学長から5人の学生に栄えある賞が贈られました。

12月13日(火)、「エコ」を推進するエコマーク・キャッチコピー表彰式が学長室にて行われました。

島田学長は、最優秀作品、優秀作品に選ばれた学生5人に賞を贈呈。一人ひとりの作品に対して賛辞を贈り、「今後も学生の意見を積極的に取り入れながらエコロジーについて全学的に考えを深め、さらに活動を広げたい」と熱く語りました。

●最優秀作品

エコマーク
現代社会学部３年
伊藤真由さん

キャッチコピー
現代社会学部３年
亀井佑哉さん

●優秀作品

エコマーク
メディアプロデュース学部２年
菅原未紀さん

キャッチコピー
教育学研究科１年　矢倉将伍さん
メディアプロデュース学部１年
大橋奈央さん